第2回安曇野赤十字病院建設支援検討委員会 会議概要

- 1 委員会名 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会
- 2 日時 平成18年9月28日(木) 午後1時30分～3時30分
- 3 会場 安曇野赤十字病院 講堂
- 4 出席者 荻原委員、澤海委員、西山委員、青木委員、丸山委員、米倉委員、腰原委員、曾根原委員、宮澤委員、山崎委員、小林委員、藤森委員
- 5 市側出席者 土肥企画財政部長、堀田健康福祉部長、飯沼企画政策課長、丸山健康推進課長、猿田企画担当係長、宮下健康推進係長、黒岩主査、上條担当
日赤出席者 青山事務部長、笠原企画課長、三浦事業第一係長、斎藤主事
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 記者 1人
- 8 会議概要作成年月日 平成18年10月12日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会 (丸山副会長)
- (2) 会長挨拶 (西山会長)
- (3) 事務連絡 (事務局)
- (4) 病院視察 (病院の内部を視察)
- (5) 協議事項 (進行…会長)
 - ① 安曇野赤十字病院の現状把握について (院内の視察をして感じたこと)
 - ② 市民アンケート調査について
 - ③ その他
- (6) 閉 会 (会長)

2 審議概要

- (1) 安曇野赤十字病院の現状把握について (院内の視察をして感じたこと)

会 長：只今、病院を見て頂いて感じたところがあるかと思うが、発言を頂きたい。その中で、計画に反映できるものは反映して頂きたいので、忌憚の無い意見をお願いしたい。

委 員：看護師で、今は民間のアパート等から通って来る人が多いのか。当直以外の人の宿舎はあるのか。

委 員：無い。今はアパート暮らしが多い。先程見て頂いた古い所もかつては寄宿舍だった。今は、訪問看護ステーションとか研修医の泊まる部屋として使っている。自宅から通っている人もあれば、アパートから通院して来る人もいる。

委 員：新病院の構想の中にはあるのか。

委 員：基本計画の中に寄宿舍は入っていない。

委 員：今見て感じたことは、病院の古い所・狭い所を改造して、手を加えて今の診療をしてくれていることを痛切に感じている。安曇野市になって交通体系等も整う中で、早い時期に建設して、安曇野市民の生活の安全を病院を中心にして築いていくことが良いと感じた。

委 員：6人部屋があったが、新築の際は何人部屋になるのか。

委 員：4人室と個室になる。それ以外の中間室は置かないということである。

委 員：工夫して色々な場所を確保していることが伺える。回って見て狭いことを実感した。廊下に物を置いてあった。無い方がすっきりして良い。事務方の部屋が狭く苦勞されていると思う。働いている方がゆったりと、患者に対応できる環境が大事と考える。

委 員：ご指摘の通り、新病院の建築の理念の中に、職員の勤務環境についても書かれている。それが良いサービスを提供できる原動力だと思っている。スタッフの確保にも効果があると感じている。勤務環境の整備は大事なことと考えている。

- 委員：病院でも何でもそうだが、将来を見通して、倉庫とか収納を多すぎるくらい取っ
ていて抜かりはない。その辺も考慮して頂ければと思う。
- 会長：調理室は、今は乾式だとか湿式だとか言われているが……。
- 日赤：当院の厨房は59年に建設されている。この階の丁度1階になる。一応ドライフロア
という形で造ってあるが、水処理と配膳処理する所を部屋で区切る訳にはいかないの
で部屋の空気の管理が非常に難しい。食品の鮮度管理には十分に気をつけてやっている。
- 委員：建て替え計画が具体化してスタートを切っている訳だが、まだもう暫く使うとい
うことの中で、今の建物の耐震性の問題について外部検討されたことはあるのか。
- 日赤：耐震診断はしていない。2年に1回の建物検査は受けている。建築士会の方で協
力を頂きやって貰っている。
- 会長：この上は屋上で平らだが、ああいうものは必要なのか。今、省庁なんかはフラ
ットになっているが、だいたい山方式が良いと言われている。平らだと水が入ると必
ず言われる。何処から入ってくるのか分からない。設計の中で必要となれば、それ
なりに造ってもらわなければならないし、そうでなければ屋根式という形の方がメン
テは楽だ。
- 日赤：屋上へ出て気付いた方もいると思うが、東側の床の色が変わっている。あそこ
は雨漏りの為、何回かに分けて塗ったところ。ご指摘の通り分からず、結局、段々
面積が広がった。もう一つ、59年の古い建物が雨漏りをする。屋根からでなく外壁
から染み込んでくる。一番北の豊岳荘よりの建物もそうだが、壁は結構綺麗だと思
うが塗ったものである。窓のサッシの取り付けの部分から染み込んで入ってくるの
が現状である。
- 会長：患者も余裕が出てくれば若干自分のスペース・空間といったものがあつた方
が良いと思う。特に景色の良い所は屋上にそういうものを造ってやれば、気分も晴
れる。ではここで締めさせて頂く。続いてアンケート調査の結果について、事務局
から説明をされたい。

※アンケート調査の結果について説明（事務局）

- ・今回のアンケートは3,000人を対象に郵送で実施した。5地域別・10歳区分年齢別に無作為で抽出した。回答者は豊科地域で418名、穂高地域で453名、三郷地域で255名、堀金地域で134名、明科地域で155名の計1,415名から回答を頂いた。回収率は47.4%であった。
- ・2ページは、問1の性別・年齢・住まいの回答である。計20地区から回答を頂いた方の人数を示してある。
- ・問2. かかりつけ医については「ある」との回答が1,016人、「ない」が385人であった。
- ・問3. 医療機関にかかる回数では、「1ヶ月に1回程度」が一番多く、389人が回答した。この数字は回答を頂いたサンプル数を単純に足しているということで、先ず承知頂きたい。
- ・問4. 医療機関を選ぶときの基準では、一番多かったのが「専門の医師」で527件、次いで「自宅や職場からの距離」が519件、「かかりつけ」が492件の順となった。複数回答可能であるので、こういう結果になった。
- ・問5. 突然の病気に合われた時の医療機関では、予想はしていたが「救急車を呼ぶ」が一番多く、次が「安曇野赤十字病院にかかる」で445件である。
- ・問6. 安曇野赤十字病院にかかったことがあるかでは、「ある」が969人、「ない」が371人であった。
- ・問7. 安曇野日赤を選んだ理由としては、「総合病院だから」が447件、「専門の医師がいるから」が406件、「自宅や職場から近いから」が263件の順となった。
- ・問8. 日赤を受診する中で、施設面で不都合に感じた場所では、「駐車場」が飛び抜けて多く558件である。次が診療待合室で273件という結果になっている。
- ・問9. 日赤の中で、今度は対応やサービス面で不満に感じたことは、「診察までの待ち時間が長い」を挙げられた方が575件と飛び抜けた結果であった。
- ・問10. 日赤へかかったことがない理由では、一番多かったのが「病気になったことがない」ということで148件である。
- ・問11. 医療機関から他の医療機関を紹介されたことがあるかは、ほぼ同数の結果であった。
- ・問12. 紹介された医療機関としては「松本市内の病院」を挙げられた方が一番多く326件、次いで安曇野日赤が251件であった。

- ・問 13. 紹介された医療機関で満足したかでは、「満足した」が 365 件、「不満」が 63 件、「どちらでもない」が 206 件であった。
 - ・問 14. 不満と答えられた方の理由としては、「待ち時間が長かった」が 26 件、「納得のいく診察ではなかった」が 25 件、ここら辺が多い数字である。
 - ・問 15. 入院された経験では、「ある」が 901 人、「ない」が 442 人である。
 - ・問 16. 入院先で、一番多かったのは「安曇野日赤」で 468 件、次が「松本市内の病院」で 342 件という結果である。
 - ・問 17. 入院された方の医療機関を選んだ理由としては、「専門の医師がいるから」が 404 件、次が「総合病院だから」で 250 件、続いて「他の医療機関から紹介」が 210 件の順である。
 - ・問 18. 安曇野日赤へ入院されたことがある方で、その部屋として一番多いのが「6 人以上」の部屋で 249 件、「個室」は 28 件であった。
 - ・問 19. 安曇野日赤に入院中、良かったことでは、「医師等の対応が優しかった」が一番多く 249 件である。
 - ・問 20. 入院中、不満に感じたことで一番多かったのは「病室が狭かった」で 264 件あった。
 - ・問 21. 夜間・休日の急病の時に受診する医療機関としては、「安曇野日赤」が 492 件とトップ次が「救急車を呼ぶ」の 410 件である。
 - ・問 22. 新しい安曇野赤十字病院の利用については、「利用してみたい」が 1,090 人、「利用したくない」が 133 人という結果であった。
- ・以下 10 頁～18 頁は、問 8・9・20 の具体的な改善内容を、19 頁～38 頁はこれからの日赤に期待すること・役割等を、39 頁～48 頁は安曇野市の地域医療について自由に記載して頂いたことをまとめたものである。
- ・次に地域別にクロス集計をかけた結果について説明する。この表では回答頂いたサンプル数と割合を地域別に表示している。
 - ・問 2. どの地域も、かかりつけ医が「ある」と回答された方が多い。
 - ・問 3. 医療機関にかかる回数は、どの地域も「1 ヶ月に 1 回程度」と回答された方が多い。
 - ・問 4. 医療機関を選ぶときの基準では、豊科・穂高・明科地域が「専門の医師」を挙げられた方が多く、三郷・堀金地域では「かかりつけ」が一番多かった。
 - ・問 5. 突然の病気に見舞われた時の医療機関では、豊科地域が「安曇野赤十字病院」他の地域では「救急車を呼ぶ」と回答された方が一番多かった。
 - ・問 6. どの地域も安曇野日赤にかかったことが「ある」と回答された方が多い。
 - ・問 7. 安曇野日赤を選んだ理由としては、穂高地域だけ「専門の医師がいるから」を挙げられた方が多く、他の地域では「総合病院だから」を挙げられた方が一番多かった。
 - ・問 8. 安曇野日赤の施設面で不都合に感じた場所では、どの地域も「駐車場」を挙げた。
 - ・問 9. 病院の対応やサービスでは、どの地域も「診察の待ち時間が長い」を挙げられた方が一番多い。
 - ・問 10. 安曇野日赤へかかったことがない方の理由では、明科地域は「交通の便が悪い」という方が 35%、豊科地域では「病気になったことがない」とほぼ同数だが、「その他」と回答された方が一番多い。その理由としては、待ち時間が長い等である。
 - ・問 11. 他の医療機関を紹介された経験では、豊科・穂高地域が「ない」。他の 3 地域では「ある」と答えられた方が多かった。
 - ・問 12. 紹介された医療機関では、豊科・三郷・明科地域が「松本市内の病院」、穂高・堀金地域では「安曇野日赤」と回答された方が一番多い。
 - ・問 13. 紹介された医療機関では、どの地域も「満足」された方が多かった。
 - ・問 14. 不満の理由では、豊科・穂高地域が「待ち時間が長い」を挙げ、三郷・堀金・明科地域では「納得のいく診察ではなかった」の割合になっている。
 - ・問 15. 入院された経験では、5 地域とも「ある」方が多かった。
 - ・問 16. その医療機関としては、豊科・穂高・堀金地域が「安曇野日赤」に、三郷・明科地域は「松本市内の病院」に入院された方が一番多かった。

- ・問 17. 入院された方の医療機関を選んだ理由としては、どの地域も「専門の医師がいるから」を挙げられた方が割合的に一番多い。
- ・問 18. 安曇野日赤へ入院された方で、その部屋はどの地域も「6人以上」と回答された方が一番多かった。
- ・問 19. 安曇野日赤で入院中良かったことは、どの地域も「医師等の対応が優しかった」と回答された方が多い。
- ・問 20. 入院中不満に感じたことでは、どの地域も「病室が狭かった」を挙げられている。
- ・問 21. もし夜間・休日に急病となった時にかかる医療機関としては、豊科・穂高・堀金地域が「安曇野日赤」を選び、三郷・明科地域は「救急車を呼ぶ」と回答された方が多かった。
- ・問 22. どの地域も、新しい安曇野赤十字病院を利用してみたい。と回答された。
- ・今回の集計を通じて感じたことは、新しい安曇野赤十字病院に期待をしているという声が多い。ただ、施設のハード面だけでなく、中身も一緒に充実して貰いたいという声が非常に多かった。

(2) 市民アンケート調査について

会 長：集計結果について説明を受けたが、これについて質問等お願いしたい。

委 員：回答率 47%について行政としてはどう判断するか。

事務局：最低の回収率として 1/3 は担保したかった。今回 3,000 人を対象としたので 1,000 人の皆さんから回答頂ければ有効な数字と考えていた。1,415 人の皆さんから回答を頂いたことは十分な数字と捉えている。

委 員：他のアンケート調査と比較した時に、この日赤に対する回答率はどう思うか。

事務局：今回、企画政策課では、公共交通に関するアンケートと総合計画に関するアンケートを同時に実施した。サンプル数としては総合計画と日赤が 3,000 人、公共交通が 65 歳以上の高齢者世帯を対象とした。公共交通は 50.2%の回答率、総合計画と日赤はほぼ同じ数字であった。

委 員：47.4%は逆に凄い数字だと思っている。30%程度とっていた。やはり赤十字病院に期待していると理解して良い。

委 員：アンケートを実施して良かったと思う。施設や内容について課題や取組みが見えてきた。何よりも期待の大きいことがよく分かった。

会 長：確かに期待はされている。駐車場は仕方ないか……。

委 員：地域であればある程、都会ではあまり駐車場は問題にならない。田園都市であればあるほど交通機関に不満が多い。

委 員：大変参考になる。市民の方々はこの病院に評価をしてもらっていることが伺えるが、これは反省点だが、医療機関からの紹介が松本の方が多い。特に豊科が多いということは医療連携のシステムを含めて考えていかなければならない。

(3) その他について

事務局：今後の予定であるが、次回は 11 月を予定している。内容については先進病院の視察を一つ考えている。本日安曇野日赤を視察した。これと対比をするために県内の先進と呼ばれる病院を視察したい。それと同時にアンケート調査の結果を解説して頂く中で、全てを総括し建設支援検討委員会として日赤側への要望をまとめていきたい。

委 員：提案があるが、先進地域という考え方があり、地域包括ケアという先進地域がある。地域包括ケアシステムを進めた山口氏の書いた記事があるので皆さんで読んで頂いて参考にして貰いたい。

委 員：昨日、明科で審議会の学習会を開いた。事業費が増額する過程の中で、どうしてもやらなければならない理由や、広報を使って説明を良くしていけ。という意見が出たのでこの委員会におつなぎをする。

会 長：確かに大切なことで、市も支援をしていかなければならないが、市民の人たちによくお知らせして、理解を深めて頂くことが大切になる。

委員：合併特例債もなるべく使わないようにして貰いたい話も出た。「こういうことでこういう病院を造るんだ」というPRを市民にちゃんと伝える方法でやって貰いたい。という意見である。また、明科から田沢までは明科のバスが来ている。豊科はぐるまろくんが大口沢まで走っているが、時間帯をつないで、うまく病院までもってくるような方法、取り組みを考えて貰いたいということであった。

会長：公共交通機関については検討委員会を作って検討している。良い結論を待っているが、市民が動きやすい形が良い。特例債については、市の一般財源が増えてしまうので、優先的に使わない訳にはいかないが、枠のうち余裕を持って活用していくということだと思う。

お忙しいところ本日は有難うございました。次回は11月にお願いします。